Ishikawa Prefectural Rehabilitation Center News

2014／3
Vol.35

石川県リハビリテーションセンターニュース

目　次

地域で生活を支えるリハビリテーション技術支援の充実を目指して …… 1
リハビリテーションセンター機能強化事業 …… 2～3
難病相談・支援センター事業 …… 4
高次脳機能障害相談・支援センター事業 …… 5
虹の窓から：猫背予防の工夫 …… 6

地域で生活を支えるリハビリテーション技術支援の充実を目指して

当センターでは、障害のある人やお年寄りが、身近な地域で生き生きとその人らしい生活を実現できることを目指して、今年度から福祉用具の活用や生活環境の調整によるリハビリテーション技術支援（以下、技術支援）の強化事業に取り組んでいます。

具体的には、障害のある人にとって一番身近な支援者である相談支援専門員の方々を中心に、それぞれの地域で生活に必要な技術支援サービスをより効果的に提供するためのモデル事業を実施しています。今年度は能美市をモデル地域とし、障害のある人が本人の意思で快適に生活する方法を確認、発見するために、今年度リニューアルした「ほっとあんしんの家」や最新の福祉用具等の試用体験をしながら、医療機関、相談支援専門員、当センター職員等が連携して具体的な技術支援を実施しています。これらの取り組みにより、各地域で技術支援の普及と多職種のチームアプローチが深まることを期待し、今後とも他の市町においても事業展開を図っていきたいと考えています。

また、これらの技術支援サービスを支える人材のスキルアップを目的とした２つの実践研修にも取り組んでいます。一つは、支援のコーディネータである相談支援専門員や介護支援専門員の方々を対象にした「自立の視点を重視した支援計画と、それを実現するための具体的な技術支援等のプランニング実践研修会（３回１コース）」で、次年度以降も引き続き開催する予定です。もう一つは、リハビリテーション専門職や福祉用具専門相談員の方々を対象にした「障害のある人の身体機能を助けるために重要な補装具（電動車椅子、オーダーメイド車椅子、座位保持装置、重度障害者用意思伝達装置）の適合・製作研修会（６回１コース）」です。今年度は「電動車椅子」をテーマに制度や身体への適合技術、機種選定や製作に関する演習等を行っており、次年度のテーマは「オーダーメイド車椅子」を予定しています。なお、各コースでそれぞれの課程を全て受講された方々は、当センターのホームページでお名前を紹介させていただき、各地域での技術支援に役立てていただければと考えています。

今年度実施した「ほっとあんしんの家」の改修と最新の福祉用具導入等による当センター機能強化を併せて、より多くの障害のある方やお年寄りが「住み慣れた地域で、生き生きとしたその人らしい安心した生活を支える」という地域リハビリテーションの理念に基づき、今後とも地域での技術支援をより一層充実させていきたいと考えています。

リハビリテーションセンター機能強化事業

今年２月１日、リハビリテーションセンター機能強化事業により、センター内にあるバリアフリー体験住宅「ほっとあんしんの家」がリニューアルオープンしました。

今回のリニューアルでは最新の評価設備や福祉用具を数多く揃え、その人に最適な生活環境や、車椅子、コミュニケーション及び上肢作業動作等に必要な生活機能が確認できます。障害のある方々や多くの専門職の方に体験を通した相談や支援の場として、ご利用頂ければと思います。また、医療福祉関係者の技術研修や企業の研究開発等を行う場としても利用できます。

ほっとあんしんの家

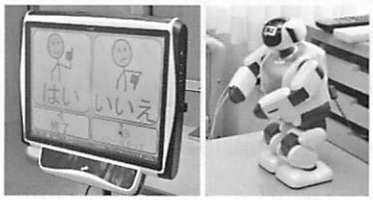
ロボットアーム

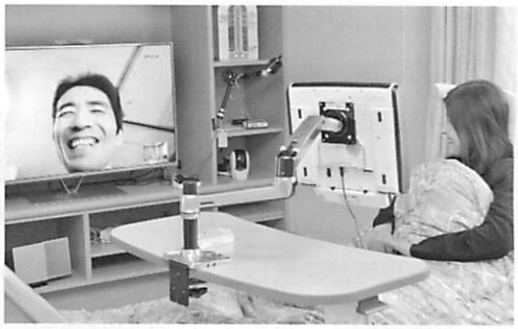
◆所在地：金沢市赤土町二13-1
☎076（266）2869
◆開館日：祝日、年末年始を除く毎日９：00～17：00
※見学は自由。相談は事前にご予約ください。

■主な設備と機器の紹介■

●上肢機能をアシストする上肢装具

腕の力が弱い方でも、呼吸や各種スイッチの操作により腕の上下運動が補助され、自分で食事や机上作業をすることができます。




見守り・意思伝達装置

●情報技術を活用した見守り・意思伝達装置

目の動きで思いの表現やテレビ、エアコンの操作ができるなど、飛躍的に進化した情報技術を活用した意思伝達装置を導入。また、スマートフォンやタブレット端末を使い、家族が外出先から自宅の様子を確認できる見守り・コミュニケーションシステムやロボットなども体験できます。

電動車椅子測定装置

●本人仕様の電動車椅子を製作するための試用機器

チィルト・リクライニング・昇降装置等を装備した高機能な電動車椅子や多様な完成用部品等を各機種導入。運転に必要な座面、背もたれ、肘掛け、運転操作インターフェース等を細かく調整でき、一人ひとりの身体特性に適した車椅子を選定できます。

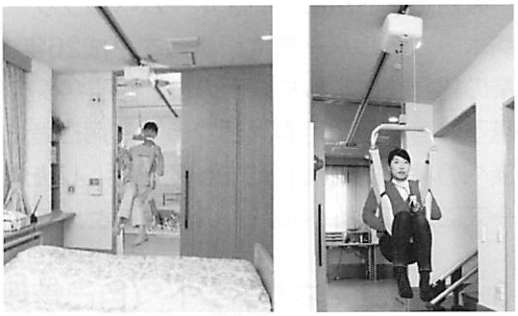
●子どもや大人の座位保持・歩行支援装置

四肢麻痺等で座ることや歩行が困難な方に対し、胸部、腰部、下肢等のサポート部品を細かく調整できる座位保持・歩行支援装置を導入。障害の度合いや成長に合わせて細かく調整でき、試用を通して本人に最適な用具を探せます。

座位保持・歩行支援装置

●電動式天井走行リフトの拡充

移乗の介助負担が大きな人でも天井走行リフトがあれば各部屋を行き来できます。今回、玄関や車庫まで移動できるようレールを増設し、ペンダント型リモコンを自分で操作することにより外出できる設備になっています。



天井走行リフト

●リモコン操作ができる小型エレベーター

エレベーターのボタン操作が困難な方でも、手元のリモコン操作でカゴの呼び出しや目的階への移動ができるようになっています。

リモコン付エレベーター

●本人に適した間取り、設備配置等の測定機器

2.5センチ間隔で穴を開けた移動壁により、部屋のスペース、浴槽、便器、手すり等の位置を自由に変えて動作評価ができる設備を導入。模擬体験を通して、本人に最適な浴室やトイレの設計、住宅改修を支援できます。

間取り・設備配置測定装置

●多彩な運転補助装置付きの運転評価用自動車

各種の運転補助装置や車椅子積載装置、回転昇降助手席等を装備した福祉車両を導入。本人の運転能力や移乗方法、車椅子積載方法、介助方法などの確認ができます。

●リハビリテーション医療機器

人間の歩行などの動作を高速度カメラ、コンピュータを使って解析する「リアルタイム三次元動作解析システム」、筋や関節の障害の診断に役立てる「超音波診断装置」、空気圧を利用して体重を免荷し、麻痺や筋力低下がある患者さんでも早期歩行訓練ができる「反重力トレッドミル」等、最新のリハビリテーション機器を整備し、より効果的なリハビリテーションプログラムが提供できます。

運転評価用自動車

難病相談・支援センター事業（平成25年度実施状況）

1　医療講演会

今年度は「脳脊髄液減少症」、「特発性大腿骨頭壊死症」、「間脳下垂体機能障害」の疾患を取り上げ、最新の情報を得たり、交流や情報交換の場となることを目的とした講演会を開催しました。

2　難病ヘルパー養成研修会

難病患者さんに適切なホームヘルプサービスを提供するため、必要な知識を身につけてもらうことを目的に難病ホームヘルパー養成研修会を平成26年１月10日に開催しました。はじめに石川県の難病対策と当センター事業の紹介をしました。その後、医王病院の医師から「神経難病の理解」と題して講義をいただき、続いて摂食・嚥下障害看護認定看護師から「難病患者さんの口腔ケアと看護」、ソーシャルワーカーから「難病患者さんと家族への精神的支援」についてお話しいただき、受講者27人に修了証書を交付しました。今後とも多様化するニーズに対応するヘルパーの方々にとって有意義な研修会を開催していきたいと考えています。

3　セルフマネジメント（自己管理）研修

平成25年11月16日、「こころと身体のリラクゼーション」というテーマで難病セルフマネジメント研修会を開催しました。当事者、ご家族、介護職員の方々41名の参加がありました。講師には、大阪府の「ハートの訪問」という難病の専門相談事業で、難病患者や家族に心の支援をされている大阪樟蔭女子大学大学院（臨床心理士）の高橋裕子先生にお越しいただきました。

高橋先生からは難病と心との関係、難病とのうまい付き合い方について、具体的に日常生活でも取り入れやすいリラクゼーションを交えてお話しいただきました。また講演後には、いしかわSCD友の会などの患者会の皆さんによる、オカリナの演奏をしていただき、オカリナの音色に耳を傾けながら和やかな雰囲気の研修会になりました。

4 難病患者生活支援普及啓発事業（語（かた）り部（べ））

医療や福祉の仕事を目指している学生たちに難病について理解を深めてもらうために、難病患者本人の体験談や闘病生活について語っていただく語り部事業を、今年度は３校を対象に行いました。講師にはALS（筋萎縮性側策硬化症）、SCD（脊髄小脳変性症）、パーキンソン病患者会の方にお願いしました。

【災害時の備えについて】　〔平成25年度特定疾患調査（患者・家族を対象に実施したおたずね票）の結果から〕

調査の回答があった4,558人のうち、避難する場所を知っていると回答した方は2,760人（60.6%）、薬の予備（７日程度）をもっている方1,905人（41.8%）、助けてくれる家族・知人等がいる方1,853人（40.7%）という状況でした。

いつ災害に見舞われるかを予知することは難しく、日頃から災害時に備えて準備しておくことが大切です。食事の指示が出されている方は３日分程度の準備を、人工呼吸器を使用されている方は、バッテリーの寿命を定期的に確認しておく、予備の外部バッテリーを用意しておくなど、災害時に備えて適切な準備をしておきましょう。（調査結果は、当センターのホームページにも掲載してあります。）

【難病ボランティア募集】　研修会や患者会活動のお手伝いをしてくださるボランティアを募集しています。関心のある方はセンターまでご連絡ください。

高次脳機能障害相談・支援センター事業（平成25年度実施状況）

1　普及啓発研修

平成25年７月13日、「光をつかみ取るまで～高次脳機能障害支援者として、家族として～」をテーマに普及啓発研修を開催しました。当事者・家族をはじめ、リハ専門職、介護支援専門員等81名の参加がありました。講師には、ご家族でもあり高次脳機能障害ピアカウンセラーとしても活躍しておられる宮城県在住の佐々木智賀子さんをお迎えしました。ご家族としての戸惑いやピアカウンセラーとしての思い、被災体験等が語られました。

2　家族教室

平成25年７月から12月の間で３回にわたり家族教室を開催し、延28名の参加がありました。高次脳機能障害の理解と対応に関する講義をはじめ、家族会や社会資源等の紹介、仕事に関する講義を行いました。交流会では参加者同士で話が弾む場面もあり、良い情報交換の場となりました。

3　高次脳機能障害実態調査

県内の医療機関や施設のリハビリテーション担当者に、調査票を郵送し、回答を依頼しました。

調査時期：H25.７～８月

調査内容：高次脳機能障害の診断基準を満たす通所者・入所者の状況

回答率：90.2%、高次脳機能障害者452名、平均年齢68.1歳

◇高次脳機能障害者の障害者手帳保持者及び介護保険利用者数の比較

（単位：人、%）

区分＼年度	H18	H25		増減（H25－H18）	
			構成比	人数	増加率
身体障害者手帳	124	158	35.0	34	27.4
療育手帳	1	0	0.0	△1	△100.0
精神保健福祉手帳	2	13	2.9	11	550.0
介護保険利用	237	305	67.5	68	28.7
手帳なし、介護保険利用なし	98	77	17.0	△21	△21.4
合　計	382	452	100.0	70	18.3

※手帳所持と介護保険利用は重複あり

◇支援上の課題、必要な支援・福祉サービスとして挙げられた点

- 地域での居場所づくり（当事者同士が集う、通いやすい場の開拓）
- 一人暮らし生活への支援（家族の高齢化または死亡後の生活支援、グループホーム等）
- 退院調整
- 就労支援
- 家族支援
- 周囲の理解　等々

高次脳機能障害は、障害に対する理解が得られにくく、福祉サービス等を利用していても支援が難しいという課題があります。今後も更なる高次脳機能障害や相談機関に関する情報の啓発普及を図ります。

4　高次脳機能障害者支援情報マップについて

千葉県千葉リハビリテーションセンターとの協力により高次脳機能障害者支援情報マップを作成しました。県内の医療機関、相談機関、教育機関、就労支援機関、介護・福祉機関、レジャー機関を対象に調査を実施し、高次脳機能障害のある方が利用できる社会資源として掲載許可をいただいた291施設の一覧を当センターのホームページに掲載していますのでご利用ください。

虹の窓から

猫背予防の工夫

リハビリテーションセンターでは、県特別支援学校、特別支援学級などの先生方からの依頼でリハビリ相談を実施しており、その中で、教室での椅子座位姿勢が悪いとの相談が多くあります。椅子に座るといわゆる猫背姿勢になってしまうので何か良い方法がないかという相談です。体に麻痺がない知的障害の子どもや発達障害の子ども、視覚障害の子どもにもよく見受けられます。

この猫背姿勢は、実は多くの二次的問題を起こします。猫背は骨盤が後ろに傾き（骨盤後傾）、背中は丸くなり、頭が胴体に対して前方になります（頭部前方姿勢）。これはお年寄りの座位姿勢と同じです。この姿勢の真似をしてみてください。いろいろな事がわかります。

まず、口が開いてしまい閉じにくくなります。そして、噛む力が弱くなり飲み込みもしにくくなります。このことは口呼吸、よだれ、嚥下障害の原因になります。また、頭は横に向きにくくなります（頭部の回旋障害）。この頭の位置は頚椎に負担をかけ、頭痛や肩こりの原因にもなります。一方、骨盤が後継し、背中が丸くなると脊柱を伸ばす筋肉（脊柱起立筋）が働かなくなり、腰痛の原因になるとともに腹部を圧迫して腹式呼吸を妨げます。また、両手を上に上げる動作がしにくくなってしまいます（肩関節挙上障害）。

このような良くない姿勢が習慣になると脊柱の変形が進み、成長にともない股関節や膝関節の変形や歩行障害にもつながります。猫背は予防が重要ですが、では、予防するにはどうしたらよいでしょうか。

第一に気づきです。本人や周囲の人が猫背は悪い習慣であるということに気づくことが大切です。そして時々正しい姿勢に直すことを心がけます。写真はパッドなどを利用することにより骨盤を前傾させ背中を伸ばす筋を働かせる方法です。手軽にできる方法なので、ぜひ試して見てください。

そのほかに長時間座位を取る場合は時々立つ、歩くなどの姿勢変換を図ることです。できれば運動の習慣をつけ、背筋など重力に逆らう筋肉の強化と体を丸くする作用のある筋肉（屈筋群、内転筋群：大胸筋、腹筋、股関節の屈筋、膝関節の屈筋など）のストレッチを組み合わせたエクササイズを取り入れるとよいでしょう。

猫背姿勢

クッションを入れることにより
骨盤が前傾し背中が伸びる

問い合わせ先

石川県リハビリテーションセンター
TEL（076）266－2860　FAX（076）266－2864
E-mail　iprc@pref.ishikawa.lg.jp
URL　http://www.pref.ishikawa.lg.jp/kousei/rihabiri

高次脳機能障害相談・支援センター
TEL（076）266－2188　FAX（076）266－2864
URL　http://www.pref.ishikawa.lg.jp/koujinou/

難病相談・支援センター
TEL（076）266－2738　FAX（076）266－2864
E-mail　nanbyou@pref.ishikawa.lg.jp
URL　http://www.pref.ishikawa.lg.jp/nanbyou/

「相談は傾聴、親身、親切に」
リハビリテーションセンターでは
県民ニーズに応えるため、
より質の高いサービスの提供を
目指しています。

編集・発行
石川県リハビリテーションセンター
〒920-0353　金沢市赤土町ニ13－1